

宮本の鐘

宮本を歩く

今年も年の瀬になり、市内の数か寺では、「除夜の鐘」が突かれることでしょう。

太平洋戦争の戦時中、全国の寺院から梵鐘（釣り鐘）や仏具などが武器生産のために供出されました。市内では、飯高寺と宮本（匠瑳地区）熊野神社の鐘だけが供出を免れました。

飯高寺の鐘は1639年に造られ、「匠瑳郡飯高教寺」とあって当時飯高村が匠瑳郡に

属していたことが分かることも、供出せずに済んだ当時の住職の苦勞話を伝え聞いたことがあります。

宮本の熊野神社は、806年にまつられたと伝わり、匠瑳南条庄12郷の総鎮守だったともいわれています。平安から鎌倉時代にかけて、市内の南部地域が「匠瑳南条庄」と呼ばれる紀州（和歌山県）熊野三山神社の荘園でした。

梵鐘は南北朝時代・135

3年12月13日に造られ、これに関係した僧侶と神官6人の名前などが刻まれています。その中心となった丸子胤宣は紀州系の家系の人物とみられますが、詳しいことは分かっています。

現在宮本区に寺院はありませんが、当時は神と仏が一体になった「神仏習合」思想の下に、神社に隣接し寺院が

存在しました。境内の石灯籠などから「王子山光明院安立寺」が確認でき、1825年の年号が見られるので、その後には廃寺となったのでしょう。

1915（大正4）年11月2日付「千葉毎日新聞」に、この梵鐘の国宝指定を申請したことが報じられています。記事によると、梵鐘は1908（明治41）年に同神社の貴重品として千葉県に登録され、今回神社関係者の総意で県を通じて内務省に申請された、とあります。その結果を伝える記事は見つかりませんが、当時からの鐘を守ろうとする人たちの熱意が感じられます。

この申請から42年後の1957（昭和32）年に、旧八日市場市で最初の千葉県指定文化財になりました。

熊野神社の梵鐘は現在収蔵庫に保管され、目に触れることはありません。660年ほど前に造られた梵鐘は、宮本の地が「下総国匠瑳南条庄」の中心だったことを裏付けるものとなっています。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

関秘書課広報広聴班

☎73・0080



梵鐘に刻まれた銘文（『八日市場市史 上巻』より）